

もくじ

文化庁に注文する  
文化行政について考えること  
静岡県教育長 宗 知信… 2

文化財の国際交流  
奈良国立博物館長 倉田文作… 4

舞台裏  
歌舞伎の制作……………国立劇場 富田鉄之助… 6

県立美術館の活動  
浅井忠とその師弟展の報告  
……………千葉県立美術館 高橋在久… 7

芸術文化関係  
日本芸術院の授賞 恩賜賞川本・司馬両氏に… 8  
春の叙勲 城戸四郎松竹会長・岩淵悦太郎・  
川口松太郎氏らに…………… 9  
いつまでも心おきなくいい仕事をするために  
芸団協 大宮悌二 … 10  
国民健康保険法に基づく助け合い  
東京芸能人健保 志村江津子… 11  
移動芸術祭春季公演計画きまる…………… 11  
日本語教員に必要な資質・能力について  
日本語教育推進対策調査委報告…………… 12  
教育内容教育方法の実践的研究一  
日本語教育研究協議会開かる…………… 13

文化財保護関係  
文化財の新指定…………… 14  
アジア博物館近代化専門家会議の開催  
坪井清足… 16

しおさい…………… 17  
地方ニュース…………… 18  
あらかると…………… 19  
法人紹介 財団法人 太宰府顕彰会…………… 20  
財団法人 観光資源保護財団…………… 20  
童謡と税金…………… 21  
お願い…………… 22  
文化財保護法教室(2)…………… 22  
広告…………… 23

1976-6

No.93

## 〈舞台裏〉

## 歌舞伎の制作

富田鉄之助

(国立劇場芸能部)



歌舞伎が初日を開けるまでの手続きは、長年のその制作伝統が今日もなお巧みに生かされ、運営されている。制作とよばれるこの業務は、俳優・裏方専門家・そして表方とよばれる営業、宣伝関係者など、多くの業種や人々の複雑に錯綜する仕事だけに、当然、思いがけぬ時々の故障もおきてくる訳だが、慣行化されてきた永年のこの手続きの中で適宜補正され、公演は不思議と期日までに遂行されてきている。以下、初日を迎えるまでの制作の各段階を述べてみよう。《企画》従来の歌舞伎制作の順序では、代表俳優を中心とした座組みがまず編成され、その顔触れや意欲を中心に狂言や場面が建てられ、次いで総合配役して出演交渉に入る。ただ国立劇場の場合はレパートリーシステムをたてまえてしている為、上演の一年ほど前から企画は立案される。まず上演候補作品は、開場に先立つ国立劇場準備室時代から検討されたものを原案に、劇場の開場後も更に専門委員の方々の検討を経て、現在百十二演目が予め選定されている。月々の演目原案は、これら候補作品等を中心として概ね上演の一年前位から数次の内部討議を重ね、最終的には専門家の

意見を徴しつつ、役員会の承認を得て決定される訳である。《上演準備》こうして上演演目が決定されると、次には必要な主演俳優との出演交渉、演目や出演者を紹介するポスター・新聞案内、そして観客依頼などの宣伝、営業活動が開始される。そしてその一方、上演台本の製作が補綴・演出者を中心に進められる。昨年九月上演された『阿国御前化粧鏡』の例にとると、台本は東大国文研究室の秋葉本を底本とし、二番目「湯上り累」は早大演博所蔵の旧河竹本を参照して、郡司正勝氏が補綴した。

原作品尊重の立場から、この上演本の作成についても、初演以来の台帳、評判記、綿絵などの文芸・演出資料が広く集められ、作の時代性や形象性が詳細に点検されて作られる訳だが、主演俳優の魅力や演技を基に創られてきた中核があり、さらに形象上でも夥しく多様性と流動性を特色として伝えられてきた歌舞伎作品だけに、今日の俳優や舞台機構、さらに制約ある興行時間に合わせて原典の主意を通すことは、それだけ慎重な作業となる訳である。演目主義にとまなうこうした伝承上の困難さは、初日へ運ぶための演出過程

でも出てくる。大道具・衣装・髪・小道具などの各専門業者に対する発注は、演出家、美術家指導のもとに公演一ヶ月前の段階でなされる訳だが、色彩・刺繍・織りなど、いずれも伝統的な業種によって作成、調達されるため、これまた伝統技術の枯渇からくる上演意図とのずれは、舞台課を中心とする技術スタッフ陣で細心に調整される。公演一ヶ月前、数稿を重ねて作成された上演台本を基に、演出家は主演俳優・長唄・義太夫・振付・立師など上演関係者と個々に打合せを重ね、時には本読み、読合せを重ねながら、舞台進行の大略の段取りの手筈を調べておく。こうした仕事が開幕のための準備作業とすれば、公演八日乃至は九日前に開始される《稽古》は、いわばその演技内容を充実させるための直接作業と云えよう。公演一週間前、新しい作品・新しい役々に意欲と工夫を秘めたスタッフ、演技者、裏方関係者は、まずその稽古開始の為の《顔寄せ》を行う。劇場側からも理事長はじめ役員が出席し、狂言作者によってまず狂言名題が読みあげられたうえ、一同の手が締められる。その公演の無事遂行を全関係者が誓いあうのである。《平稽古》稽古場の真中の机を中心に、スタッフと出演者が向かいあい、稽古はまず脚本の読み合わせから始められる。つまり、俳優が脚本の順序に従って自分の台詞を讀み、台詞以外の動作や相手役との関係に注意しあいながら読み合わせ、自分の役と劇全体の進行状態を掴むので

ある。続いては、俳優が立って居処や寸法をきめる《立稽古》で、普通は三日ほどである。「主役をひとすれば、女房役は七分、老役や脇役は四分ほど後部に居所を占める。但し主人公に對立する敵役は主役の前、つまり十三分に居処を占める」という口伝が歌舞伎にある。封建時代の男女・老若・主従の諸関係を写すドラマだけに、この居処ぎめは、演出にとっても重要なポイントとなる。《附立》つけたてと読む。俳優の動作や台詞、さらに登退場に合わせて長唄や鳴物の音楽効果を差加える作業である。時には音楽的台詞や舞踊的動作を表現の特色とする歌舞伎だけに、演出家・演者・音楽舞踊専門家との打合せによるこの作業は丁度骨格に肉や皮を被せる作業に似て、舞台化を前にした歌舞伎作業の最終作業といえる。附立て骨格の定まった演目は、いよいよ稽古場での最終稽古《惣ざらい》を経て、総合的に舞台に移される《舞台稽古》になる。一ヶ月前に発注された大道具を飾り、衣裳・髪をつけた演者、そして差加えられた音楽や舞踊：企画設定から暖め続けられてきた演目は、関係者のこうした最終点検を経て、ここに初日の舞台を迎える訳である。

「初日舞台で、幕の向うから聞えてくる観客のざわめきに、私はいつも身体が震える程の緊張を覚えます」とは、歌舞伎六十年の老名優の告白である。それはまた卵を暖め、そして産み出すような期待と不安の入りまじった歌舞伎制作者の実感とも云えよう。

### 童謡レコードと税金

「およげ！たいやきくん」の歌がヒットし、歌謡曲か童謡かの問題が起きた。歌謡曲ならば、物品税（主として奢侈性、娯楽性、装飾性、便益性が高い物品を対象とする税）がかかる。税額は15%。

ところが童謡であれば非課税となる。これは、物品税法施行令で、蓄音機用又は磁気音声再生機用のレコードのうち「(一)童謡、童話、朗読、宣伝文、案内文、通信文、探訪の記録又は時事問題その他の社会的事実若しくは科学その他の学術に関する記録、報道、解説若しくは論述を主として録音したものの」は非課税とされているからである（物品税法施行令第一条、第六条、別表第一）。

たいやきくんが三百万枚売れて、一枚五百円に課税されるとすれば、法一条一項二号により製造工場からの移出価格の15%だから（法附則 課税物品表 第二種 番号一〇品目七）、税金一億二千七百万円。

$$\text{税額} = \text{課税標準} \left\{ 500 \text{円} \times (1 - 0.35) \times \frac{100}{115} \right\} \times 0.15$$

0.35はレコードの場合の控除額。これは税込みであるので、115で割って、課税標準を出す。

テープの場合は税額が10%であり、控除は36%になっているので、

$$\left\{ 500 \text{円} \times (1 - 0.36) \times \frac{100}{110} \right\} \times 0.1$$

となる。

童謡なら0。その差が大きいから、「童謡」の定義をめぐって時々、レコード会社と税務署のもめるのも無理はないが、このたいやきくんは、童謡と判定された。この歌の作詞家高田ひろお氏が童謡として作り、フジTVの幼児むけ番組「ひらけ！ポンキッキ」の中で歌われたことからしても（中央公論五十一年三月号）当然の取扱いと思われる。

### お 願 い

文化庁広報誌「文化庁月報」を毎月御愛読いただき厚く御礼申し上げます。本誌は、文化庁施策の正確な広報を目的として発行してまいりましたが、最近文化関係の方々から有料で頒布をしてほしいとの御要望が出てまいりました。つきましては、これらの御要望にこたえ、内容のいっそうの充実を図り、広く文化活動にたずさわる方々にとって読み易く、かつ参考となるものとするため今回定価一部一五〇円（年間購読料一、八〇〇円送料共）とし株式会社ぎょうせいから毎月二十五日発行することになりました（六月号を御入手済みの方に五十一一年七月号から五十二年三月分までにつきまして購読料一、三五〇円でお願いたします）。なにとぞ引続き本誌を御愛読賜わようお願い申し上げます。

なお、御購読申し込みは本誌そう入の振替用紙にて「ぎょうせい」あてお願いいたします。

昭和五十一年四月

文 化 庁  
株式会社 ぎょうせい

**文化庁月報** 第九十三号  
昭和51年6月25日印刷・発行 定価一五〇円

編 集 文 化 庁  
発 行 所 株式会社 ぎょうせい

本 社 東京都中央区銀座7丁目4番12号  
営 業 所 〒162 東京都新宿区西五軒町52番地  
電 話 二六八一—二四一(代表)  
振替口座 東京 九一六一番

印 刷 東京 真宏印刷株式会社  
電 話 五五一—一三三七